

西松亮三

三山亭でふられ、氣妙な顔をして夕暮までに集まつて來た同宿人は二十三名で、之が定員四名の室へ押込られて居たが、誰れ一人不平もなく、無事に夕飯をすまして、電燈がつく時分になる江さんが上つて來て、どぞ皆さんこの室は狭いから下の廣い座敷の方へ移つて下さいと云ふて來た御尤だと思ひつゝ一同が廣間の御座敷へ移つた、下の廣間は六疊が二間に拾疊が一間、物置が四疊だがこの物置は使はれぬ、合して二十二疊で、疊敷にするともだこの廣間でも疊一疊に一人たらずである。

寢る前に頭の禿た御方が差し出て一同の初對面の挨拶があつたそれがすむとまた元の不言不語で、旅の疲れか一人へり二人へりして間もなく皆がいとやすらかに漕ぎ出した。翌朝は赤い大きな蚊が蚊帳の中に飛んでいたのか、或は旅の朝寢も氣がとがめるのか、寢坊もなしに一同が裏の大佛の五時の鐘で目が醒めた。飯前に寫生に行く勉強家もある。朝飯がすむ、初日で皆が天氣よく會場へ出掛るが二人連は二組より見受なかつた、残りは別々に、會場を想像して行く者もある、先生方の顔を想像して行くものもある、兎に角重い道具を擔いで、女中のお早うお歸も聞き流しかたくなつて門を出て行つた。晝飯から皆が打とけ出した。之れから向ふ十餘日間は何日の事を日々繰りかやして居たので、何も書く事もないが、朝の早い者は五時頃で遅い者も同じく半時すぎには醒めて、顔も洗つて水貼もして朝飯

を待つて居る、朝飯は宿の都合でか六時頃で、終る四五日前からは五時半頃に喰してくれた、喰ふとすぐ會場へ散り々に出て行く。晝は飯を喰ふて一時間ばかり休息して、指定の寫生地へそれ／＼裏の蟬の聲ににくられて元氣よく出て行く。また晝寢をする者もあるが之れは極く少して、する者は日々極つて居た。夕は交代に湯あみて一同膳につく、すべて寢込むまでの數時間が實に吾等同宿者の一番楽しく且つ無邪氣に、老少の別なく和氣藹々として打ち解けて、晝の蒸し暑さを忘れるのである、この樂しさは第三者には想像にも及ばんのである、然し吾はこの樂しさを畫筆で感情を現するは容易であるが、文筆では口まで出て居るがよく書き現さぬ。蚊帳に這入つて半時間程は吉田豐君のハモニーカの美音に連られて皆が謳歌するが、いつか口の中で歌うて終る、あとはこのハモニーカの低い美しくしき音が靜かな室に満ちて、雨戸をもれ込む細き長き月の光を浴びて安き夢路にさそはれる。

會期中、當樓に茶話會が二夜と、廻り番の講話が一夜あつた、當合宿者の茶話會は話があつたが實行する折がなかつた。初茶話會は盛んで餘興には例のオトウサンの講談、吉田君のハモニーカが三曲、澤田君の落語余の手足の藝等で拾時頃散じた。有名なオトウサンは、三日の夕三山亭から對山樓同宿者の親密を謀るためとの條件付で乗り込んで來たから、吾等は滿腔の熱血を濺ぎて氏を大いに迎へた、その甲斐あつて氏が滯在中に残されし幹事の職分は、たとへ無形であつたけれど合宿者に代つ

て謝意を表しておく、また余が走り廻るに反して、君が座して
隔意なく終りまで圓滿に同宿者諸君の親密を謀られし事を重れ
て余も謝してをく。オトーサンの起りは、去年大阪で寄宿舎の
元締であつたからで、また一名前韓國皇帝の稱を奉つたのは、
君の顔つき髭の工合がドー見ても似てゐるからだとのことだ、
今年も對山樓で一名奉つたが、之れは秘してをく。

同宿者の別名は多くあつて、大抵一人／＼附けられて居たが、
有名なだけを書殘してをく、また思ひ出しても興味があると思
ふから。田舎者、ハモニカ、拾六枚君、洗たく屋、第一細
君、第二細君、コワイ人、松魚、茶香、コセ、狼、エーヘン等で、そ
の中エーヘンは一時盛んに流行したものであるが譯を解するも
のは知る人ぞ知る。また女中の別名もあつて、なる江君が大
佛、みさを君がハイカラ、つる江君の嫁さん、お清のヤスクニ、
お好の煙草屋、外に二三人あつた。その中なる江、つる江、み
さを君などは、なか／＼よく終りまで嫌な顔もせず立ち働い
てくれた、ましてなる江君の心切、心情に至つては、實に深く
謝してをく、この外の失敗談や滑稽談等は自分の知れる限りで
も色々あるがこのたよりはたゞ滯在中の輪廓だけに止めてをく
また面白き色は諸君等の方で塗つてくれるだらうと思ふ。

書き落したが、滯在中誰やらが「對山樓では靴を見て飯を喰ふ」
と評されたがこれは實で、初めから終りまで玄關で日々三度の
食事を喰されし事を書き殘してをく。

終りに臨んで同宿者諸君の將來の健全を祝し、茲に同宿中余の

職の至らざるを謝す、また宿主女中一同とも健全なれ。何日か
また來るこの會に再び相見む事を今より指折り操りて待つ。

(九月拾三日)

追て京阪神地方の同趣味者に申す。

本年も例年の通り關西美術會第七回洋畫展覽會は拾月十日よ
り十一月五日まで京都岡崎美術館内に開催御座候間陸續御來
館下され度候その節小生は日々同事務所にて御待ち申居候故、
御尋れ下され候はゞ館内御案内及び、識れる限り説明申上た
く候間、是非御來館の節は御尋れ下され度候。以上

近 事

○みどり洋畫會にては十月四日より二十五日間上野公園竹の臺
陳列場にて展覽會を開き、猶毎月例會を開いて大に斯道を研究
すべしといふ

○文部省第二回美術展覽會及白馬會は、何れも十月十五日より
十一月二十三日迄上野に於て開會さるべし

○石川欽一郎氏は歸京中の處、去月五日再び臺灣へ出張され
たり

○日本銀行有志の繪畫展覽會は本月三日坂本公園内の茶亭にて
催さるべしと

○本月一日より二日間山形市に於て繪畫展覽會あり、水彩畫に
は東京より吉田博氏及大下氏の出品あるべし